

7. 内科学（2）分野

研究テーマ	アルツハイマー病治療戦略としてのタウ蛋白リン酸化・重合制御機構の解明
研究担当者	医学系部門 内科学(2)分野 <u>濱野 忠則</u> 医学系部門 内科学(2)分野 <u>白藤 法道</u> 医学系部門 内科学(2)分野 <u>榎本 崇一</u> 医学系部門 内科学(2)分野 <u>山口 智久</u>
概要	超高齢社会を迎え、アルツハイマー病に対する対応は社会的に要請される重要な任務である。タウ蛋白が高度にリン酸化し、重合した神経原線維変化はアルツハイマー病の特徴的な病理所見である。我々はタウ蛋白を発現する神経系細胞を用い、タウ蛋白のリン酸化、および重合を抑制する薬剤の開発に向けた研究を行っている。現時点で高脂血症治療薬 ピタバスタチン、糖尿病治療薬 ピオグリタゾン、くも膜下出血治療薬 ROCK 阻害薬が有効である可能性が示された。今後タウの重合抑制のため有効と考えられる薬剤、すなわちリン酸化・重合したタウに結合しやすい高分子化合物の効果を培養細胞やマウスを用いた研究により検証するとともに、それらを用いた医師主導治験を行い、実用化を目指していく。
キーワード	アルツハイマー病 タウ蛋白
適用分野	創薬 化学 繊維産業
関連企業	製薬企業、化学工業、繊維産業